

## 「思うこと」と「考えること」の違いを、意識して欲しい

新年度に入り、各学校での授業も再開した。

教材として、障害、難病に関するビデオも使用している。その授業の感想文を見ると、初期の頃はまだ仕方がないが、「可哀想と思った」、「頑張ってると思った」のように、「～思った」、「～思った」の記述が目につく。素直に感じてくれたかなと思うが、もう一歩踏み込んで、「だから自分は、こう考えよう、こう考える」というものが少ない。

子どもと係わり合うプロになるなら、感じる、思うことで留まるのではなく、なぜ自分はそう思ったのかを考えてもらいたい。そうした考える癖が身に着いていないと、単なる知識、情報だけに終わり、現場に立った時に、一人一人異なる子どもの言動に応じて応用する知恵にならないと思う。

そこで、学生に「～と思う」と「～と考える」の違いに気づいてもらうように話している。

また、「中、高校で運動クラブでは身体的な能力を向上させようと努力してきたように、人と係わり合う職業に就こうとするのであれば、それにふさわしい精神、気持ちに向上すべく、やはり日頃のささやかな自分の言動の中で、考えながら行動する努力をして欲しい。その努力なくして、考えるという癖は身に着かないよ。

人と係わり合う仕事の本質は、マニュアルにはなく、相手を思い遣る気持ちを持ち、相手が良くなる（幸せになる）ことに役立つのでないかと思うことを、実践・検証の繰り返しの中にある。

『教養とは、相手の心を思い遣る心』とか。自らの教養を深めることが相手の幸せに寄与する職業なんて、真のエリートな仕事。そうした職業を目指している自分を、まず誉め、誇りに思うように！

そして、相手の幸せを考えるには、まず自らの幸せとは何かを常に考え続けていないと、相手の幸せに繋がるのでないかというものは見えてこないよ。みなさんは、幸せに成りたくて今日も生きているはず。でも、『幸せ』なんてこれという答えがないだけに、自分で考え続けるしかない。考え続けるには、色々な言葉、知識が必要。だから、色々なことを知ろうとし勉強する必要があるのだよ。」と、具体例を絡ませながら語りかけてるつもり。

さて、今年度の各学校の学生は、何ヶ月過ぎれば、「自分はこう考える」という感想文が目につき出すかなあ～。

楽しみ！